



ひすい

糸魚川市立ひすいの里総合学校

学校だより 12月号 (No. 15)

令和3年12月10日発行

いじめ見逃しゼロスクール集会 ～ 人権学習会 ～



12月1日(水)の全校朝会は、いじめ見逃しゼロスクール集会を行いました。いじめは決して許されない行為であることを踏まえ、人との関わり方について全校児童生徒で学習しました。

集会の始めは、糸魚川人権擁護委員協議会の7名の皆さんから「はしのうえの おおかみ」の話をパネルシアターでしていただきました。そして、登場する動物の気持ちを考えることを通してどのような言葉掛けや態度が相手を尊重することなのかについて学んでいきました。

話のあらすじは、一本橋を渡ろうとするウサギなどの小さな動物たちを、自分が渡るのが先だと言うオオカミが「もどれ、もどれ。」と追い払い、橋を渡らせません。そこへ、大きなクマがやってくるとオオカミは「わたしが もどります。」と言って態度を一変させます。クマは「もどらなくてもいい」と言い、オオカミを抱きかかえて自分の後ろの橋の上に置いてあげます。オオカミは優しいクマの対応から改心し、小さな動物たちと仲良くなる、というものです。

子どもたちは、ウサギの気持ちを「悲しい気持ち。泣きたくなる。傷ついちゃう。」と表したり、「クマが橋を渡してあげたことで、優しくなった。」とオオカミの変化を理由付けたりして、人との接し方を

考えました。そして、友達にやさしく話し掛けたり、友達を手助けしたりすることの大切さを確認しました。

その後、人権教育、同和教育担当の鈴木教諭が、いじめ見逃しゼロスクール「標語・ポスター」コンクールに応募した標語についてクイズ形式で紹介し、個々の標語の良さについて人権擁護委員の皆さんからコメントをもらいました。「笑顔・応援・思いやり・ふわふわ言葉」などのキーワードにお褒めの言葉をいただき、これからも毎日の生活の中で生かすよう、子どもたちに語り掛けてくださいました。



最後は、「手のひらを太陽に」を全員で歌って踊り、楽しく学習を終えました。子どもたちにとって、人権について楽しく学ぶことができた45分間でした。

糸魚川中学校区 いじめ見逃しゼロスクール集会

11月30日（火）に小学部6年生と中学部全員で糸魚川中学校区いじめ見逃しゼロスクール集会に参加しました。今年は、シンガーソングライターの“佐藤ひらり”さんの公演&トークでした。

子どもたちは開演前から期待感いっぱい、満面の笑顔で今か今かと佐藤ひらりさんの登場を待っていました。大きな拍手の中、ステージに登場するやいなや鬼滅の刃のテーマ曲「炎」が演奏され、手拍子を打ってリズムをとりながら、目を輝かせて聴き入っていました。

障害を乗り越え、夢に向かって努力するひらりさんの姿をしっかりと心に焼き付けてきました。

いじめ見逃し
ゼロスクール
糸魚川中学校区いじめ見逃しゼロスクール集会が11月30日、糸魚川市民会館で開かれ、全員のシンガー・ソングライター、佐藤ひらりさん（三条市出身）を迎えてピアノの弾き

歌で夢を応援

語りとトーク公演が行われた。
公演は2回行われ、午前の部に糸魚川中2、3年生とひすいの里総合学校6年生・中学部、午後の部に糸魚川中1年生と同校区の

5小学校の6年生が参加した。児童生徒合わせて約700人。
佐藤さんは今年開かれた東京2020オリンピックの開会式で国歌独唱の夢を果たした。「夢や目標はかな

糸魚川中学校区



【糸魚川タイムス 2021.12.2】

うと信じ、言い続け、追い続けよう。きつとすてきな奇跡が起ころ」とメッセージを送り、自身の作詞作曲の歌を披露した。「心の目を開いて未来へ向かっていこう」「友達と笑い合った楽しい情景を思い出して」と優しく励ましなど歌に込めた思いを届け、透明感のある伸びやかな歌声を響かせた。

演奏の合間のトーク

では、学校の授業中に作った歌の楽しいエピソードを紹介し、コロナ禍でくじけそうになった経験なども語った。児童生徒からは「音楽活動をしていてやりがいを感じる時はどんな時ですか」「すてきな演奏をありがとうございました。思ったことをそのまま歌にしてすごいと思いました」と質問や感想が寄せられた。

小中学生に「夢を信じ追い続けて」とメッセージを送り、弾き語りして伸びやかな歌声を響かせた佐藤さん